

パソコンの不調対策

J J1SXA/池

何年も使い続けている古いパソコンは、突然フリーズしたり、アプリが異常終了したり など、原因不明のトラブルが多くなる。

そんな時は無理に原因を究明しようとするのは時間の浪費、OSの不調解決機能を試す方がよいようだ。主な解決機能は、「システムの復元」と「リセット」だ。「システムの復元」は、パソコンの動作が好調の時に、復元ポイントを作っておき、不調になった時それを使って、OSを好調時の状態に戻す、Windowsのアップデートやアプリのインストール、ドライバソフトのインストールなどで不調になった時は有効な対策だ、個人データは影響を受けないので手軽に試せる。

リセットはOSを初期化する機能だが、ひと昔前のパソコンでは、個人データがすべて消えた、だが、今のパソコン（Win10、Win11）は個人データを残す選択肢と個人データを残さない選択肢があり選べる。

個人データを残さない選択肢を選べば、個人データはアカウントごと消えるがパソコンは購入時の状態に戻る、当然、トラブルは解決する可能性が高い、手間がかかるが、個人データのバックアップは必須だ。

復元ポイントを自動的に作成するには、「システムの保護を有効にする」が「有効」になっていなければならない

一度設定して「有効」になっていると、更新プログラムがインストールされる前や、システムの復元操作が開始される前に、バックアップとして復元ポイントが自動的に作成される。

「有効」にして復元ポイントを自動的に作成するには、「スタート」から「設定」の順にクリックし「システム」をクリック、次に「詳細情報」をクリック、スクロールダウンし、「システムの保護」をクリックする、システムのプロパティ画面が表示されるので、利用できるドライブ欄を確認し「構成 O) ...」をクリックする。

システム保護対象（ドライブ名）画面が表示されるので、「システムの保護を有効にする」を選択し、「OK (O)」をクリックする、これでOKだ。復元ポイントを手動で作成するには、タスクバーの検索ボックスに「復元ポイントの作成」と入力し、結果の一覧から「復元ポイントの作成」を選ぶ。

「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「システムの保護」タブで、「作成」をクリック、復元ポイントの説明を入力し、「作成」を選択、「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、「閉じる」をクリックでOKだ。

実際に、「復元ポイント」を使って以前の好調時に戻すには、「スタート」をクリックし、表示されたメニューから「設定」をクリック、「設定」が表示されるので、画面左側から「システム」をクリックし、表示された一覧から「バージョン情報」をクリック。

「バージョン情報」が表示されたら、「関連リンク」欄から「システムの保護」をクリック、「システムのプロパティ」が表示されるので、「システムの保護」タブをクリックし、「システムの復元」欄から「システムの復元」をクリックします。

「システムの復元」が表示されたら、「次へ」をクリック、（以前、システム復元を行ったことがある場合、「システムファイルと設定を復元します。」という画面が表示されますので、「別の復元ポイントを選択する」をクリックし、「次へ」をクリック。）一覧から任意の復元ポイントをクリックし、「影響を受けるプログラムの検出」をクリック、画面左下に「他の復元ポイントを表示する」が表示されている場合は、チェックを入れることで、過去に作成されたほ

かの復元ポイントが一覧に表示される。

「削除されるプログラムとドライバー」ボックスと「復元が見込まれるプログラムとドライバー」ボックスを確認して、問題がなければ「閉じる」をクリック。(削除されるプログラムやドライバーは、システムの復元完了後、必要に応じて再インストールする。)

ここで表示された内容に不都合がある場合は、「閉じる」をクリックして、前の画面に戻ったら、他の復元ポイントを選択。

復元ポイントが選択されていることを確認して、「次へ」をクリック、「復元ポイントの確認」という画面が表示されるので、内容を確認し、「完了」をクリック。

「いったんシステムの復元を開始したら、中断することはできません。続行しますか?」というメッセージが表示されるので、「はい」をクリック。

「システムの復元の準備をしています...」というメッセージが表示され、システムの復元が開始されるので、そのまましばらく待つ。

システムの復元が完了すると、自動的にパソコンが再起動する、再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。...」というメッセージが表示されたら、「閉じる」をクリックで操作完了。

システムを復元しても問題が改善しない場合や、復元した後に問題が発生した場合は、復元の取り消しを行い、以前の状態に戻すことができる。

「スタート」をクリックし、表示されたメニューから「設定」をクリック、「設定」が表示される。画面左側から「システム」をクリックし、表示された一覧から「バージョン情報」をクリック、「バージョン情報」が表示されたら、「関連リンク」欄から「システムの保護」をクリック。

「システムのプロパティ」が表示されたら、「システムの保護」タブをクリックし、「保護設定」欄の「利用できるドライブ」の一覧から対象のドライブをクリックして、「システムの復元」欄から「システムの復元」をクリック。

「システムの復元」が表示されたら、「システムの復元の取り消し」をクリックし、「次へ」をクリック。

「復元ポイントの確認」という画面が表示されるので、内容を確認し、「完了」をクリック、「いったんシステムの復元を開始したら、中断することはできません。続行しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリック。

しばらくすると「システムの復元の準備をしています...」というメッセージが表示され、システムの復元が開始されるので、そのまましばらく待ちます。

システムの復元の取り消しが完了すると、自動的にパソコンが再起動します、再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。...」というメッセージが出たら、「閉じる」をクリックで操作完了。

復元も復元の取り消しも、Win11での操作だが、Win10の場合も若干違うが同様操作ができる、復元は、PCの動作が不調になった時、好調時の復元ポイントを使って不調を解消するものだが、そもそもWindowsが起動しなければ別問題だ。

システムファイルの破損や不具合、更新の失敗などが原因でWindowsが起動しなくなることもある、修復方法を把握しておく必要がある。

状況によっては、パソコンを購入時の状態に戻すことになるが、その作業に必要な「回復ドライブ」は正常に動く時しか作成できない。

Windows には、起動障害の修復機能があり、2 回続けて起動できないと、「自動修復機能」が働き、「自動修復を準備しています」のメッセージが画面に出る、その後、「自動修復機能が稼働中」のメッセージに変わる。

自動修復機能でも治らない場合は、自分で回復環境から手動での修復を試みる、回復環境は自動修復に失敗した画面から開くが、回復ドライブやインストール USB メモリーから起動した場合でも利用できる。

回復ドライブを作るには、正常時に作成ウィザードを開き、画面の指示に従う、タスクバーの検索欄に「回復」と入力、「回復ドライブ」クリックで「回復ドライブの作成」画面が開く。

「インストール USB メモリー」を作るには、マイクロソフトのページで「メディア作成ツール」を入手して実行する。

回復環境で起動不能トラブルが直らなければ、「回復ドライブ」でパソコンを購入時の状態に戻せる、内臓ストレージを丸ごとフォーマットして完全に購入時の状態に戻すので、必要なデータ等の救出やバックアップは必須、その後は、Windows の再セットアップが必要。

「回復ドライブが無い場合は最後の手段、他のパソコンで「インストール USB メモリー」を作り、それで故障機を起動、必要ならコマンドプロンプトで個人データを救出して「今すぐインストール」を実行する、最初に Windows のプロダクトキーを求められるが入力不要、初期化後のセットアップでネットに接続した際、その機種個有のデジタルライセンスを自動認証する仕組みになっている。

話は前後するが、パソコンが起動しない時は、まず電源周りの確認が必要、電源端子のゆるみや、ノートパソコンではバッテリー切れ等の凡ミスが多いようだ、この確認が基本の基。

この記事は、マニュアルに従って実行・勉強したことを、例のごとく自分の備忘録として、駆け足で書いたものだが、抜けているところ、間違っているところもあるかも知れない、その辺はご承知おき頂いてお読みください。

実行する場合はあくまでも自己責任でお願いします。

(2004 年 6 月記)